

項目16:遠隔	要約	
<p>第21章 災害時と公衆衛生の緊急事態における遠隔精神医療</p> <p>1. 災害遠隔精神医療の適用</p>	<p>1. 災害前段階において、防災計画と災害についての教育が中心となる。災害時に遠隔精神医療がいつ、どのように使用されるかを見極め、インターネット接続確保のためのインフラ構造・設備の整備ならびに遠隔精神医療提供のために必要な技術的準備を十分に積む必要がある。</p> <p>2. 急性期段階においては精神科医は遠隔精神医療を通して、医療提供者ならびに他の精神医療専門家のコンサルテーションに応え、精神医学的介入を必要とする人々のトリアージを支援し、介入の実施を助ける。また、支援者自身の精神的健康を維持するためのサービスの提供にも使用可能であり、災害支援者の援助に有益である。</p> <p>3. 急性期後段階では精神医療ケアの提供で遠隔精神医療は重要な役割を担う可能性がある。専門知識へのアクセスとして継続的に使用可能である(例:Frueh et al., 2007b。)また災害がもたらす精神医学的な影響についての継続的な教育でも効果的である。</p>	<p>1. Op. 2. Op. 3. Ev.</p>
<p>2. 災害時の遠隔精神医療での問題</p>	<p>1. 医療と法律の問題が要となる(例:コンサルテーションを行う臨床家と患者が別の州にいる、臨床家の資格確認の徹底、診療の医学記録の必要、臨床家の医療過誤保険が災害時の臨床遠隔精神医療行為をカバーするよう準備をしておく)</p> <p>2. 遠隔精神医療へのアクセスは文化的、言語的、民族的、社会経済的な問題により影響される(Shore et al., 2006, 2007a)。遠隔精神医療使用への理解の度合いに地域格差が見込まれ、また、通訳の必要が生じるなど、導入環境が複雑化する。</p>	<p>1. Op. 2. Ev.</p>
<p>3. 結論</p>	<p>1. 災害時を含む緊急事態において難題とされている、精神医療のリソース不足やアクセスの困難は遠隔精神医療によって解決される可能性をもたらしている。</p> <p>2. 遠隔精神医療の実施に特化した訓練を受ける精神医学臨床家ならびに災害精神保健専門家の増加がリソースの確保を促進し、同時に事前の綿密な計画がそのリソースへのアクセス促進を支援する。</p> <p>3. 災害時遠隔精神医療の重要性は決定的であり、関係機関の共同と統合により公衆衛生の促進を多助長する。</p>	<p>1. Op. 2. Op. 3. Op.</p>